

注3

大学番号：私497

[平成23年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

岡山理科大学 工学部 建築学科

注2

## 【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 加計学園  
平成23年5月1日現在

### 作成担当者

担当部局（課）名 庶務部 評価企画課

職名・氏名 庶務部長 マツハラ クミコ  
松原 久美子

電話番号 086-256-8414

（夜間） 086-252-3161

F A X 086-256-9702

e-mail syomu@office.ous.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は届出時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

届出時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には届出時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部  
(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成23年3月11日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1	調査対象大学等の概要等	1
2	授業科目の概要	5
3	施設・設備の整備状況，経費	9
4	既設大学等の状況	10
5	教員組織の状況	13
6	留意事項に対する履行状況等	23
7	その他全般的事項	24

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 加計学園

## (2) 大学名

岡山理科大学

## (3) 大学の位置

〒700-0005  
岡山県岡山市北区理大町1番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(カケ コウタロウ) 加計 晃太郎 (平成13年1月)		
学長	(ハダ ヨシオ) 波田 善夫 (平成20年4月)		
学部長	(ハヤシ コウザブロウ) 林 紘三郎 (平成22年4月)		
学科長	(ヨシダ ハルノリ) 吉田 治典 (平成22年4月)	(ムネモト ジュンゾウ) 宗本 順三 (平成23年4月)	任期満了に伴う変更 平成23年4月1日(23)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成20年度に報告済の内容 → (20)

平成23年度に報告する内容 → (23)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。  
 ・ 様式は, 平成20年度開設の4年制の学科の場合(平成23年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
工学部 建築学科  学士(工学)	4年	70人	3年次 5人	290人	

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	70 (—) [—]	— (—) [—]	0.90倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	175 (—) [7]	— (—) [—]		
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	170 (—) [7]	— (—) [—]		
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	159 (—) [6]	— (—) [—]		
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	63 (—) [4]	— (—) [—]		
入学定員超過率 B/A	—		—		—		0.90			

- (注) ・ ( ) 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。  
 ・ [ ] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで**記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。  
 ・ 「平成23年度」には, 平成23年5月1日現在の状況を記入してください。  
 ・ 「平成20~22年度」には, 確定した数値を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ - ] -	[ - ] -	[ - ] -	[ - ] -	[ - ] -	[ - ] -	[ 4 ] 63	[ - ] -	
2年次	/		[ - ] -	[ - ] -	[ - ] -	[ - ] -	[ - ] -	[ - ] -	
3年次			/		[ - ] -	[ - ] -	[ - ] -	[ - ] -	[ - ] -
4年次	/				/		/		[ - ] -
計			[ - ] -	[ - ] -					[ - ] -

- (注) ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学整数**を記入してください。
  - ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
  - ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	在学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成20年度 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日)	計 [ ]	(累積)計 [ ]	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	(主な退学理由)		
平成21年度 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日)	計 [ ]	(累積)計 [ ]	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
	(主な退学理由)		
平成22年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	計 [ ]	(累積)計 [ ]	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 人	うち平成22年度 人	
	(主な退学理由)		

(注)・各年度の退学者数・在学者数については、該当年度間(例えば、平成22年度であれば、平成22年4月1日から平成23年3月末まで)の状況を記載してください。また、数字については確定した数値を記入してください。

- ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度における退学者数】を、【当該対象年度の入学者数+当該対象年度前年度までの確定した在学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。なお、参考までに例示を添付しますので、そちらをご参照ください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
  - ・就学意欲の低下    ・学力不足    ・他の教育機関への入学・転学    ・海外留学
  - ・就職    ・学生個人の心身に関する事情    ・家庭の事情    ・除籍    ・その他

## 2 授業科目の概要

<工学部 建築学科>

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	代数学Ⅰ	1前	2			1					
	代数学Ⅱ	1後		2		1					
	解析学Ⅰ	1前	2			1					
	解析学Ⅱ	1後		2		1					
	物理学Ⅰ	1前		2		1					
	物理学Ⅱ	1後		2		1					
	力学	1後		2		1					
	情報リテラシー	1前	2								
共通系科目	建築概論	1前	2			7	4				
	建築材料	2前	2			2	1				
	測量学	2前		2							
	建築法規	2前	2								
	建築生産	2後		2		1					
	学外研修	3前		2		7	4				
	技術者倫理	3前		2		7	4				
	エコロジカルデザイン	4前		2		3	1				
計画系科目	設計演習Ⅰ	1後	3			4	2				
	住宅計画	1後	2			1					
	建築計画	2前	2			1					
	設計演習Ⅱ	2前	3			4	2				
	CAD/CG演習Ⅰ	2前		2			1				
	設計演習Ⅲ	2後	3			4	2				
	日本建築史	2後	2			1					
	ハウジング	2後		2		1	1				
	CAD/CG演習Ⅱ	2後		2			1				
	設計演習Ⅳ	3前		3		4	2				
	住宅デザイン論	3前		2		1					
	近代建築史	3前		2		3					
	都市計画	3前		2			1				
	住環境ユニバーサルデザイン	3前		2		1					
	インテリアデザイン・色彩学	3前		2		1	1				
	設計演習Ⅴ	3後		3		4	2				
	西洋建築史	3後		2		1					
	建築デザイン論	3後		2		1					
環境デザイン	3後		2		1						
都市設計	3後		2								
設計方法論	4前		2			1					
建築経済・経営	4前		2								
構造系科目	構造力学Ⅰ	1前	2			1					
	構造力学Ⅱ	1後	2			1					
	構造力学演習	1後		2		1					
	構造力学Ⅲ	2前		2		1					
	構造力学Ⅳ	2後		2			1				
	鋼構造	3前		2			1				
	鉄筋コンクリート構造	3前		2		1					
	木質構造	3前		2			1				
	建築構造材料実験	3後		2		2	1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
構造系科目	耐震・耐風設計	3後		2			1				
	建築基礎構造	3後		2		1					
	構造計画	4前		2		1					
環境設備系科目	建築環境工学Ⅰ	1後	2				1				
	建築環境工学Ⅱ	2前		2			1				
	建築設備Ⅰ	2後	2			1					
	建築設備Ⅱ	3前		2		1					
	環境設備工学演習	3後		2		1	1				
	建築環境設計演習	4前		2			1				
	建築設備設計演習	4前		2		1					
専門関連科目	技術マネジメント	4後		2							
	経営工学	2前		2							
	特別研究	4通	8			7	4				
科上目級	上級数学Ⅰ	1前		2							
	上級数学Ⅱ	1後		2							
科入門	入門数学	1前		2							
	入門物理	1前		2							

工学部共通科目

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
B1群	英語Ⅰ	1前	2								
	英語Ⅱ	1後	2								
	科学英語Ⅰ	2前		2							
	科学英語Ⅱ	2後		2							
	科学英語Ⅲ	3前		2							
	科学英語Ⅳ	3後		2							
	英会話Ⅰ	2前		2							
	英会話Ⅱ	2後		2							
	ドイツ語Ⅰ	1前		2							
	ドイツ語Ⅱ	1後		2							
	フランス語Ⅰ	1前		2							
	フランス語Ⅱ	1後		2							
	中国語Ⅰ	1前		2							
	中国語Ⅱ	1後		2							
	ハンブルⅠ	1前		2							
	ハンブルⅡ	1後		2							
	日本語	1前		4							
日本語会話	1前		4								
日本語理解	1後		2								
日本語表現	1後		2								
B2群	文章表現法Ⅰ	1前・後		2							
	プレゼンテーションⅠ	1前・後		2							
	教養演習Ⅰ	1前・後		2							H23より教育効果を考慮し「教養演習Ⅱ」を統合(23)
	教養演習Ⅱ	1前・後		2							H23より教育効果を考慮し「教養演習」に統合(23)
	企業と人間Ⅰ	2前		2							H23より教育効果を考慮し「企業と人間Ⅱ」を統合(23)
	企業と人間Ⅱ	2後		2							H23より教育効果を考慮し「企業と人間」に統合(23)
	キャリア形成講座	1前・後		2							
	企業情報特論	2前		2							
インターンシップ	2通		2								
文章表現法Ⅱ	2前		2								



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
B2群	プレゼンテーションⅡ	2前		2								
	文章表現法Ⅲ	3前		2								
	プレゼンテーションⅢ	3後		2								
	心理学	1前・後		2								
	社会心理学	1前・後		2								
	哲学	1前・後		2								
	論理学	1前・後		2								
	倫理と宗教	1前・後		2								
	文学	1前・後		2								
	日本史	1前・後		2								
	外国史	1前・後		2								
	マスメディア論	1前・後		2								
	政治学	1前・後		2								
	国際関係論	1前・後		2								
	経済学	1前・後		2								
	環境と社会	1前・後		2								
	日本国憲法	1前・後		2								
	法学	1前・後		2								
	考古学	1前・後		2								
	比較文化論	1前・後		2								
	社会と人間	1前・後		2								
	福祉環境論	1前・後		2								
	科学技術と人間	1前・後		2								
	岡山学	1後		2								H23よりカリキュラムの充実を図るため科目を追加(23)
	健康の科学	1前・後		2								
	生涯スポーツⅠ	1前・後		1								
	生涯スポーツⅡ	1前・後		1								
	生涯スポーツⅢ	1前		2								
	科学技術倫理	2前		2								
	ボランティア論	1後 1前		2								H23より教育効果に配慮し開講期を変更(23)
	科学ボランティア実践指導Ⅰ	1後		1								
	科学ボランティア実践指導Ⅱ	2前・後		1								H23より教育効果に配慮し開講期を変更(23)
科学・工作ボランティア入門	1前・後		2									
日本の文化と歴史Ⅰ	1前・後		2									
日本の文化と歴史Ⅱ	1前・後		2									

- (注) ・ 届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- 届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成22年度に届出された大学等は届出時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。  
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - 「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
  - 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1)授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし、「(3)未開講科目」欄には記載する必要はありません)。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
19	109	0	128	19	108	0	127	
				[ 0 ]	[ Δ1 ]	[ 0 ]		

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[ ]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当科目なし	—	—	—	—	—
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。(ただし、未開講科目があった場合は、(1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	教養演習Ⅱ	2	1前・後	一般	選択	「教養演習Ⅰ」と「教養演習Ⅱ」で開講していた科目を「教養演習」に統一したことによる(23) 代替措置 無
2	企業と人間Ⅱ	2	2後	一般	選択	「企業と人間Ⅰ」と「企業と人間Ⅱ」で開講していた科目を「企業と人間」に統一したことによる(23) 代替措置 無
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「教養演習Ⅰ」と「教養演習Ⅱ」で開講を計画していたが、大学全体のキャリア教育科目見直しの動きの中で「教養演習」という名称に統一することとなった。本学科においては、開設初年度より「教養演習」として開講しているため代替措置の必要はないと考えている。  
 「企業と人間Ⅰ」と「企業と人間Ⅱ」で開講を計画していたが、大学全体のキャリア教育科目見直しの動きの中で「企業と人間」という名称に統一することとなった。本学科においては、開設初年度より「企業と人間」として開講しているため代替措置の必要はないと考えている。  
 上記2科目に関する学生への周知は、年度当初のチューター説明会において全チューターに履修方法を説明し、オリエンテーション等で履修指導することにより行っている。(23)

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \frac{2}{128} = \boxed{0.01}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	借用期間及び面積 3年 223.55㎡ 20年 1,190㎡ 30年 15,432㎡ 60年 15,974㎡  H23より校舎敷地購入に伴う変更(23)			
	校舎敷地	136,539㎡ <del>136,440㎡</del>	0㎡	0㎡	136,539㎡ <del>136,440㎡</del>				
	運動場用地	119,713㎡	0㎡	0㎡	119,713㎡				
	小 計	256,252㎡ <del>256,153㎡</del>	0㎡	0㎡	256,252㎡ <del>256,153㎡</del>				
	そ の 他	530,917㎡ <del>530,249㎡</del>	0㎡	0㎡	530,917㎡ <del>530,249㎡</del>				
	合 計	787,169㎡ <del>786,402㎡</del>	0㎡	0㎡	787,169㎡ <del>786,402㎡</del>				
(2) 校舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体  H23より校舎面積(27号館、27号館構造実験室、28号館)集計錯誤による変更(23)				
	86,493㎡ 86,218㎡ ( 86,493㎡ ) <del>( 86,218㎡ )</del>	0㎡ ( 0㎡ )	0㎡ ( 0㎡ )	86,493㎡ 86,218㎡ ( 86,493㎡ ) <del>( 86,218㎡ )</del>					
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体  H23より用途変更及び集計錯誤による変更(23)			
	77室 <del>79室</del>	109室 <del>110室</del>	670室 <del>607室</del>	12室 <del>14室</del> (補助職員 4人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	工学部 建築学科			15 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点		
	工学部 建築学科	7429 [544] ( 6979 [499] )	14 [6] ( 14 [6] )	122 [119] ( 122 [119] )	78 ( 78 )	351 ( 342 )	0 ( 0 )		
	計	7429 [544] ( 6979 [499] )	14 [6] ( 14 [6] )	122 [119] ( 122 [119] )	78 ( 78 )	351 ( 342 )	0 ( 0 )		
(6) 図書館	面 積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		H23より収容可能冊数の見直しによる変更(23)				
	3,192㎡	615	409,889 <del>409,907</del>						
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体  H23より面積値錯誤による変更(23)		
	3,716㎡ 7,388㎡	トレーニングルーム2室	フィットネスルーム1室						
		野球場1面	テニスコート5面						
		アーチェリー場1カ所	弓道場1カ所						
幅跳・三段跳場1面									
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	学科全体	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	60千円	60千円	図書購入費	0千円	200千円		800千円
	共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	0千円	250千円	1,000千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,530千円	1,470千円	1,470千円	1,470千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、手数料 等							

(注)・届出時の計画を、届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成23年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(23)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	岡山理科大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍		岡山県岡山市 北区理大町 1番1号	
理学部									
応用数学科	4	95	—	350	学士（理学）	1.29	昭和39年度		
化学科	4	70	—	295	学士（理学）	0.95	昭和39年度		
応用物理学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	昭和41年度		
物理科学専攻	4	30	—	120	学士（理学）	0.95	平成14年度		
医用科学専攻	4	40	—	160	学士（理学）	—	平成14年度		
基礎理学科	4	75	—	300	学士（理学）	1.11	昭和50年度		
生物化学科	4	85	—	340	学士（理学）	1.26	昭和63年度		
臨床生命科学科	4	85	—	340	学士（理学）	1.18	平成16年度		
動物学科	4	40	—	160	学士（理学）	1.32	平成20年度		平成20年度より理学部動物 学科を設置。
工学部									
バイオ・応用化学科	4	75	—	300	学士（工学）	—	昭和61年度		
応用化学専攻	4	—	—	—	—	1.26	昭和61年度		・名称変更 平成18年度より応用化学科 応用化学専攻、生物・環境 化学専攻 →バイオ・応用化学科
生物・環境化学専攻	4	—	—	—	—	—	昭和61年度		
機械システム工学科	4	85	—	340	学士（工学）	1.02	昭和61年度		
電気電子システム学科	4	70	—	280	学士（工学）	0.90	昭和61年度		・名称変更 平成19年度より工学部電子 工学科→電気・電子システム 学科
情報工学科	4	85	—	340	学士（工学）	1.08	平成4年度		
知能機械工学科	4	55	—	235	学士（工学）	0.84	平成17年度		
生体医工学科	4	60	—	240	学士（工学）	0.72	平成19年度		平成19年度より工学部生体 医工学科、総合情報学部建 築学科を設置
建築学科	4	70	3年次 5	70	学士（工学）	0.90	平成23年度		平成23年度より総合情報学 部建築学科を募集停止し工 学部建築学科を設置
総合情報学部									
情報科学科	4	80	—	320	学士（総合情報学）	0.95	平成9年度		
コンピュータシミュレーション学科	4	—	—	—	学士（総合情報学）	—	平成9年度		平成18年度より総合情報学 部コンピュータシミュレーション学科は 募集停止し、在学生の卒業 を待って廃止。入学定員40 名は総合情報学部建築学科 に振替
生物地球システム学科	4	70	—	280	学士（総合情報学）	1.10	平成9年度		
社会情報学科	4	80	—	290	学士（総合情報学）	—	平成9年度		
地域人間情報専攻	4	—	—	—	—	1.29	平成15年度		総合情報学部社会情報学科 地域人間情報専攻情報社会 システム専攻を廃止。
情報社会システム専攻	4	—	—	—	—	—	平成15年度		
建築学科	4	—	—	—	学士（総合情報学）	—	平成19年度		

大学の名称	倉敷芸術科学大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定員 超過 率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
(芸術学部)								岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地	平成17年度より芸術学部工芸・デザイン学科より10名を生命科学部健康科学科へ振替。 産業科学技術学部起業学科(通信教育課程)を募集停止。
美術学科	4	—	—	—	学士(芸術)	—	平成7年度		
工芸・デザイン学科	4	—	—	—	学士(芸術)	—	平成7年度		
美術工芸学科	4	35	—	160	学士(芸術)	0.83	平成20年度		
メディア映像学科	4	30	—	120	学士(芸術)	1.14	平成14年度		
デザイン学科	4	35	—	130	学士(芸術)	1.17	平成20年度	平成18年度より産業科学技術学部コンピュータ情報学科より30名、生命科学科より10名を振替。生命科学部に生命動物科学科を設置し、健康科学科10名増。	
(産業科学技術学部)									平成19年度より芸術学部工芸・デザイン学科より10名、起業学科より10名を生命動物科学科に振替。
IT科学科	4	—	—	—	学士(産業科学技術)	—	平成7年度	岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地	平成20年度より芸術学部美術学科、工芸・デザイン学科を募集停止し、芸術学部美術工芸学科、デザイン学科を設置。産業科学技術学部IT科学科を設置。コンピュータ情報学科は、IT科学科に名称変更。起業学科は、起業経営学科に名称変更。
起業経営学科	4	—	—	—	学士(産業科学技術)	—	平成16年度		
観光科学科	4	45	—	175	学士(産業科学技術)	1.10	平成20年度		
経営情報科学科	4	60	—	60	学士(産業科学技術)	0.71	平成23年度		
(生命科学部)									生命科学部に生命医科学科を設置。生命科学科より、10名を観光科学科に振替。生命動物科学科編入学3年次8名増。
生命科学科	4	45	—	175	学士(生命科学)	1.17	平成16年度	岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地	
健康科学科	4	55	—	235	学士(健康科学)	1.06	平成16年度		
生命動物科学科	4	65	3年次 8	271	学士(生命科学)	1.16	平成18年度		
生命医科学科	4	45	—	175	学士(生命科学)	1.22	平成20年度		
健康医療科学科	4	30	—	30	学士(生命科学)	0.63	平成23年度		
学部(通信教育課程)									
(産業科学技術学部)			2年次						平成21年度より芸術学部美術工芸学科より5名を生命動物科学科へ振替。芸術学部デザイン学科より5名を生命医科学科へ振替。産業科学技術学部IT科学科より5名を生命科学科へ振替。産業科学技術学部IT科学科より5名を観光科学科へ振替。
IT科学科	4	—	—	—	学士(産業科学技術)	—	平成16年度	産業科学技術学部コンピュータ情報学科(通信教育課程)は、IT科学科(通信教育課程)に名称変更。平成21年8月より産業科学技術学部IT科学科(通信教育課程)を募集停止。	
			3年次					平成23年度より、産業科学技術学部IT科学科(30-0)企業経営学科(30-0)を学生募集停止し、産業科学技術学部経営情報科学科(60)を設置。生命科学部に健康医療科学科(30)を健康科学科(60-55)より5名振替、定員を25名増やし設置。芸術学部美術工芸学科(40-35)からデザイン学科(30-35)へ5名振替。	

大学の名称	千葉科学大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
(薬学部)	年	人	年次 人	人		倍	(平成16年度)	千葉県銚子市 潮見町3番地	平成18年度より薬学部薬学科を6年制課程へ移行し、薬学部薬科学科を設置。
薬学科	6	120	4年次 10	915	学士(薬学)	0.85	平成18年度		
薬科学科	4	—	—	—	学士(薬科学)	—	平成18年度		平成20年度より薬学部動物生命薬科学科を設置。
動物生命薬科学科	4	—	—	—	学士(動物生命薬科学)	—	平成20年度		
生命薬科学科	4	50	—	100	学士(生命薬科学)	0.56	平成22年度		※ 薬学部の平均充足率は経過年数が薬学科が6年、生命薬科学科が2年であり、平均値に偏りが出るため未記載。
(危機管理学部)									
防災システム学科	4	—	—	—	学士(危機管理)	—	平成16年度		平成21年度より危機管理学部防災システム学科及び環境安全システム学科を募集停止し、動物・環境システム学科、医療危機管理学科を設置。
環境安全システム学科	4	—	—	—	学士(危機管理)	—	平成16年度		
危機管理システム学科	4	100	3年次 5	375	学士(危機管理)	1.09	平成16年度		平成22年度より薬学部薬科学科及び動物生命薬科学科を募集停止し、薬学部生命薬科学科、危機管理学部航空・輸送安全学科を設置。
動物・環境システム学科	4	60	3年次 5	185	学士(危機管理)	0.77	平成21年度		
医療危機管理学科	4	80	3年次 5	265	学士(危機管理)	1.02	平成21年度		
航空・輸送安全学科	4	40	3年次 5	80	学士(危機管理)	0.45	平成22年度		

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校等の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

- ・ 届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
- ・ 「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)の記載は不要です。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<工学部 建築学科>

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	竹内 渉 (59)	平成23年4月	代数学Ⅰ 代数学Ⅱ 解析学Ⅰ 解析学Ⅱ 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 力学						
専任	教授	宗本 順三 (65) (高)	平成23年4月	建築概論※ 学外研修 技術者倫理※ エコロジカルデザイン※ 設計演習Ⅰ 建築計画 設計演習Ⅱ 設計演習Ⅲ 設計演習Ⅳ 近代建築史※ インテリアデザイン・色彩学※ 設計演習Ⅴ 環境デザイン 特別研究						
専任	教授	吉田 治典 (65) (高)	平成23年4月	建築概論※ 学外研修 技術者倫理※ エコロジカルデザイン※ 建築設備Ⅰ 建築設備Ⅱ 環境設備工学演習 建築設備設計演習 特別研究						
専任	教授	江面 嗣人 (59)	平成23年4月	建築概論※ 学外研修 技術者倫理※ エコロジカルデザイン※ 設計演習Ⅰ 設計演習Ⅱ 設計演習Ⅲ 日本建築史 設計演習Ⅳ 近代建築史※ 設計演習Ⅴ 西洋建築史 特別研究						
専任	教授	古川 博司 (64) (高)	平成23年4月	建築概論※ 建築材料※ 学外研修 技術者倫理※ 設計演習Ⅰ 設計演習Ⅱ 設計演習Ⅲ 設計演習Ⅳ 住宅デザイン論 近代建築史※ 設計演習Ⅴ 建築デザイン論 特別研究						
専任	教授	後藤 義明 (57)	平成23年4月	建築概論※ 建築材料※ 学外研修 技術者倫理※ 設計演習Ⅰ 住宅計画 設計演習Ⅱ 設計演習Ⅲ ハウジング※ 設計演習Ⅳ 住環境ユニバーサルデザイン 設計演習Ⅴ 特別研究						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	田中 利幸 (63) (高)	平成23年4月	建築概論※ 建築生産 学外研修 技術者倫理※ 鉄筋コンクリート構造 建築構造材料実験 構造計画 特別研究						
専任	教授	山崎 雅弘 (49)	平成23年4月	建築概論※ 学外研修 技術者倫理※ 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 構造力学演習 構造力学Ⅲ 建築構造材料実験 建築基礎構造 特別研究						
専任	准教授	松下 大輔 (36)	平成23年4月	建築概論※ 学外研修 技術者倫理※ 設計演習Ⅰ 設計演習Ⅱ CAD/CG演習Ⅰ 設計演習Ⅲ CAD/CG演習Ⅱ 設計演習Ⅳ インテリアデザイン・色彩学※ 設計演習Ⅴ 設計方法論 特別研究						
専任	准教授	弥田 俊男 (37)	平成23年4月	建築概論※ 学外研修 技術者倫理※ 設計演習Ⅰ 設計演習Ⅱ 設計演習Ⅲ ハウジング※ 設計演習Ⅳ 都市計画※ 設計演習Ⅴ 特別研究						
専任	准教授	小林 正実 (47)	平成23年4月	建築概論※ 建築材料※ 学外研修 技術者倫理※ 構造力学Ⅳ 鋼構造 木質構造 建築構造材料実験 耐震・耐風設計 特別研究						
専任	准教授	中山 哲士 (40)	平成23年4月	建築概論※ 学外研修 技術者倫理※ エコロジカルデザイン※ 建築環境工学Ⅰ 建築環境工学Ⅱ 環境設備工学演習 建築環境設計演習 特別研究						
兼任	教授	濱谷 義弘 (53)	平成23年4月	代数学Ⅰ 解析学Ⅰ						
兼任	教授	新倉 正和 (64)	平成24年4月	技術マネジメント						
					兼任	教授	田代 勤 (67)	平成23年4月	入門物理	教育内容の充実を図るため 兼任教員を配置(23)
兼任	准教授	日比野 正樹 (36)	平成23年4月	上級数学Ⅰ 上級数学Ⅱ	兼任	教授	春木 茂 (66)	平成23年4月	上級数学Ⅰ 上級数学Ⅱ	日比野正樹退職(平成23年3月)により、別の兼任教員へ変更(23)
兼任	准教授	岩崎 彰典 (54)	平成23年4月	情報リテラシー						
兼任	講師	高木 宣徳 (50)	平成24年4月	測量学						



認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	湯浅 康生 (55)	平成24年4月	建築法規						
兼任	講師	三村 重人 (62)	平成24年4月	建築法規						
兼任	講師	高原 健一郎 (52)	平成24年4月	CAD/CG演習 I CAD/CG演習 II						
兼任	講師	緒方 清隆 (68)	平成25年4月	都市計画※ 都市設計※ 建築経済・経営						
兼任	講師	石丸 紀興 (72)	平成25年4月	都市設計※						
兼任	講師	池本 敏 (53)	平成23年4月	入門数学	兼任	講師	和田 真治 (49)	平成23年4月	入門数学	兼任講師の変更に伴い担当教員を変更(23)
兼任	講師	石井 恵 (68)	平成23年4月	入門数学						
兼任	講師	池上 数一 (65)	平成23年4月	入門数学						
兼任	講師	成広 淳太郎 (69)	平成23年4月	入門数学						
兼任	講師	渡邊 正志 (43)	平成23年4月	入門物理	兼任	講師	沖 隆義 (59)	平成23年4月	入門物理	兼任講師の変更に伴い担当教員を変更(23)
兼任	講師	山口 雅之 (70)	平成23年4月	入門物理						
兼任	講師	榮 繁男 (71)	平成23年4月	入門物理						

<共通>

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	丸山 糸美 (62)	平成23年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ	兼任	講師	西川 憲一 (45)	平成23年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ	クラス編成の調整により担当教員を変更(23)
兼任	教授	西村 好弘 (75)	平成24年4月	科学英語Ⅰ 科学英語Ⅱ						
兼任	教授	植村 榮 (71)	平成24年4月	科学英語Ⅰ 科学英語Ⅱ 科学英語Ⅲ 科学英語Ⅳ						
兼任	教授	高池 久隆 (57)	平成23年4月	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ 文学 比較文化論 教養演習Ⅰ					ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ 文学 比較文化論	
									教養演習 教養演習Ⅰ	H23より教養演習Ⅰを教養演習に変更(23)
兼任	教授	三木 恒治 (55)	平成23年4月	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ 文学 文章表現法Ⅰ 教養演習Ⅰ					ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ 文学 文章表現法Ⅰ	
									教養演習 教養演習Ⅰ	H23より教養演習Ⅰを教養演習に変更(23)
兼任	教授	三島 勝正 (59)	平成23年4月	心理学 社会心理学						
兼任	教授	中島 聡 (63)	平成23年4月	論理学						
兼任	教授	小林 博昭 (64)	平成23年4月	日本史						
兼任	教授	志野 敏夫 (53)	平成23年4月	外国史 ボランティア論 日本の文化と歴史Ⅱ					外国史 日本の文化と歴史Ⅱ	
									岡山学	H23より担当科目を追加(23)
									兼任	講師
兼任	教授	木村 邦彦 (65)	平成23年4月	マスメディア論						
兼任	教授	泉 俊弘 (52)	平成23年4月	経済学						
兼任	教授	井上 堅太郎 (69)	平成23年4月	環境と社会						
兼任	教授	山下 栄次 (67)	平成23年4月	環境と社会						
兼任	教授	西村 次郎 (56)	平成23年4月	福祉環境論 健康の科学 生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ 生涯スポーツⅢ 教養演習Ⅱ					福祉環境論 健康の科学 生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ 生涯スポーツⅢ	
									教養演習 教養演習Ⅱ	H23より教養演習Ⅱを廃止し教養演習に変更(23)
兼任	教授	若村 国夫 (65)	平成23年4月	科学技術と人間						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼担	教授	亀田 修一 (57)	平成23年4月	岡山学	教育課程の充実を図るため科目を追加(23)
					兼担	教授	西戸 裕嗣 (59)	平成23年4月	岡山学	教育課程の充実を図るため科目を追加(23)
					兼担	教授	波田 善夫 (63)	平成23年4月	岡山学	教育課程の充実を図るため科目を追加(23)
					兼担	教授	北岡 豪一 (67)	平成23年4月	岡山学	教育課程の充実を図るため科目を追加(23)
					兼担	教授	北川 文夫 (54)	平成23年4月	岡山学	教育課程の充実を図るため科目を追加(23)
					兼担	教授	西村 敬一 (66)	平成23年4月	岡山学	教育課程の充実を図るため科目を追加(23)
					兼担	准教授	能美 洋介 (46)	平成23年4月	岡山学	教育課程の充実を図るため科目を追加(23)
兼担	教授	新倉 正和 (64)	平成24年4月	企業情報特論						
兼担	教授	米田 稔 (49)	平成23年4月	科学*ラティ7実践指導Ⅰ 科学*ラティ7実践指導Ⅱ 科学・工作*ラティ7入門						
兼担	教授	滝澤 昇 (54)	平成23年4月	科学*ラティ7実践指導Ⅰ 科学*ラティ7実践指導Ⅱ 科学・工作*ラティ7入門						
兼担	教授	クルモフ バレリー (52)	平成23年4月	科学*ラティ7実践指導Ⅰ 科学*ラティ7実践指導Ⅱ 科学・工作*ラティ7入門						
兼担	教授	小野 忠良 (66)	平成23年4月	科学*ラティ7実践指導Ⅰ 科学*ラティ7実践指導Ⅱ 科学・工作*ラティ7入門						
兼担	教授	河村 実生 (48)	平成23年4月	科学*ラティ7実践指導Ⅰ						
兼担	教授	西野 雅二 (61)	平成23年4月	日本の文化と歴史Ⅰ						
兼担	准教授	水谷 直樹 (49)	平成24年4月	経営工学						
兼担	准教授	河本 誠 (59)	平成24年4月	科学英語Ⅰ 科学英語Ⅱ						
兼担	准教授	石田 美佐江 (50)	平成24年4月	科学英語Ⅰ 科学英語Ⅱ						
兼担	准教授	David Richard Niel (53)	平成24年4月	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ						
兼担	准教授	皿田 琢司 (48)	平成25年4月	文章表現法Ⅲ プレゼンテーションⅢ						
兼担	准教授	中西 俊二 (63)	平成23年4月	日本国憲法 法学 科学技術倫理						
兼担	准教授	白石 純 (55)	平成23年4月	考古学					考古学 岡山学	H23より担当科目を追加(23)
兼担	准教授	森 博史 (57)	平成23年4月	健康の科学 生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ 生涯スポーツⅢ						
兼担	准教授	山口 一裕 (53)	平成23年4月	科学*ラティ7実践指導Ⅰ 科学*ラティ7実践指導Ⅱ 科学・工作*ラティ7入門						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	高原 周一 (45)	平成23年4月	科学ホラティイ実践指導Ⅰ 科学ホラティイ実践指導Ⅱ 科学・工作ホラティイ入門						
兼任	准教授	竹崎 誠 (43)	平成23年4月	科学ホラティイ実践指導Ⅰ						
兼任	准教授	齋藤 達昭 (50)	平成23年4月	科学ホラティイ実践指導Ⅰ						
兼任	准教授	坂根 弦太 (43)	平成23年4月	科学ホラティイ実践指導Ⅰ	兼任	准教授	<del>坂根 弦太 (43)</del>	平成23年4月	科学ホラティイ実践指導Ⅰ	クラス編成の調整により担当削除(23)
					兼任	講師	松尾 美香 (32)	平成23年4月	文章表現法Ⅰ プレゼンテーションⅠ	教育内容の充実を図るため兼任教員を追加(23)
					兼任	講師	松村 博行 (35)	平成23年4月	政治学	教育内容の充実を図るため兼任教員を追加(23)
					兼任	講師	三原 裕子 (33)	平成23年4月	経済学	教育内容の充実を図るため兼任教員を追加(23)
兼任	講師	猪口 雅彦 (49)	平成23年4月	科学ホラティイ実践指導Ⅰ						
兼任	講師	西前 和世 (61)	平成23年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ						
兼任	講師	林 玉美 (56)	平成23年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ						
兼任	講師	是近 成子 (53)	平成23年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ	兼任	講師	大野 浩恵 (39)	平成23年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ	兼任講師の変更に伴い担当教員を変更(23)
兼任	講師	小野 順子 (66)	平成23年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ						
兼任	講師	佐久川 豊子 (67)	平成23年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ						
					兼任	講師	小迫 勝 (67)	平成23年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ	教育内容の充実を図るため兼任講師を追加(23)
					兼任	講師	下林 千賀子 (58)	平成23年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ	教育内容の充実を図るため兼任講師を追加(23)
					兼任	講師	鳥越 洋子 (58)	平成23年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ	教育内容の充実を図るため兼任講師を追加(23)
兼任	講師	松岡 由美子 (52)	平成24年4月	科学英語Ⅰ 科学英語Ⅱ						
兼任	講師	Philip Gudgeon (37)	平成24年4月	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ						
兼任	講師	Gavin Thomas (41)	平成24年4月	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ						
兼任	講師	バーデン 京子 (48)	平成24年4月	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ						
兼任	講師	石井 成人 (50)	平成23年4月	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ 文章表現法Ⅰ プレゼンテーションⅠ						
兼任	講師	西本 真理子 (55)	平成23年4月	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ						
兼任	講師	林 侑静 (56)	平成23年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ						
兼任	講師	支 洪濤 (44)	平成23年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	華 信来 (50)	平成23年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ						
兼任	講師	矯 学真 (55)	平成23年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ						
兼任	講師	林 正黙 (47)	平成23年4月	ハングルⅠ ハングルⅡ						
兼任	講師	浅利 典正 (34)	平成23年4月	ハングルⅠ ハングルⅡ						
兼任	講師	全 円子 (45)	平成23年4月	ハングルⅠ ハングルⅡ	兼任	講師	<del>全 円子 (45)</del>	平成23年4月	ハングルⅠ ハングルⅡ	クラス編成の調整により担当削除(23)
兼任	講師	柳 枝青 (50)	平成23年4月	ハングルⅠ ハングルⅡ						
兼任	講師	河 智弘 (40)	平成23年4月	ハングルⅠ ハングルⅡ						
兼任	講師	羅 勝元 (33)	平成23年4月	ハングルⅠ ハングルⅡ	兼任	講師	<del>羅 勝元 (33)</del>	平成23年4月	ハングルⅠ ハングルⅡ	クラス編成の調整により担当削除(23)
兼任	講師	青井 由佳 (41)	平成23年4月	日本語 日本語理解						
兼任	講師	堂田 佐和子 (60)	平成23年4月	日本語会話 日本語表現						
兼任	講師	梅川 ゆう子 (41)	平成23年4月	日本語会話						
兼任	講師	山口 信夫 (64)	平成23年4月	哲学						
兼任	講師	吉谷 啓次 (48)	平成23年4月	哲学						
兼任	講師	村下 邦昭 (35)	平成23年4月	倫理と宗教						
兼任	講師	尾崎 美恵 (57)	平成23年4月	文章表現法Ⅰ 文章表現法Ⅱ プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションⅡ						
兼任	講師	中島 和美 (39)	平成23年4月	文章表現法Ⅰ						
兼任	講師	生田 夏樹 (60)	平成23年4月	文章表現法Ⅰ						
兼任	講師	世良 利和 (54)	平成23年4月	文章表現法Ⅰ 文章表現法Ⅱ プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションⅡ					文章表現法Ⅰ 文章表現法Ⅱ プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションⅡ	
									ボランティア論	H23より担当科目を追加(23)
兼任	講師	藤野 薫 (51)	平成23年4月	文章表現法Ⅰ						
兼任	講師	飯田 哲司 (51)	平成23年4月	プレゼンテーションⅠ キャリア形成講座						
兼任	講師	佐藤 大介 (30)	平成23年4月	プレゼンテーションⅠ	兼任	講師	松田 周司 (42)	平成23年4月	プレゼンテーションⅠ	兼任講師の変更に伴い担当教員を変更(23)
					兼任	講師	上村 明子 (43)	平成23年4月	プレゼンテーションⅠ	教育内容の充実を図るため兼任講師を追加(23)
兼任	講師	小林 宏行 (79)	平成23年4月	マスメディア論						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	田邊 麻里子 (60)	平成23年4月	マスメディア論 社会と人間 企業と人間Ⅱ					マスメディア論	クラス編成の調整により担当科目削除(23)
									社会と人間	
									企業と人間 企業と人間Ⅱ	H23より企業と人間Ⅱを廃止し企業と人間に変更(23)
兼任	講師	前田 浩 (53)	平成23年4月	政治学						
兼任	講師	砂川 和泉 (43)	平成23年4月	国際関係論						
兼任	講師	横尾 昌紀 (39)	平成23年4月	経済学						
兼任	講師	山下 賢二 (39)	平成23年4月	経済学						
兼任	講師	福田 直樹 (44)	平成23年4月	経済学	兼任	講師	三村 和久 (42)	平成23年4月	経済学	H23より担当教員を変更(23)
兼任	講師	菅川 健二 (72)	平成23年4月	日本国憲法 法学						
兼任	講師	中富 公一 (57)	平成23年4月	日本国憲法	兼任	講師	矢吹 香月 (50)	平成23年4月	日本国憲法	H23より担当教員を変更(23)
兼任	講師	山口 和秀 (69)	平成23年4月	日本国憲法						
兼任	講師	葛生 栄二郎 (52)	平成23年4月	日本国憲法 法学						
兼任	講師	小阪 清行 (62)	平成23年4月	比較文化論						
兼任	講師	市場 恵子 (60)	平成23年4月	社会と人間						
兼任	講師	榎原 宥 (64)	平成23年4月	社会と人間 企業と人間Ⅰ					社会と人間	
									企業と人間Ⅰ	H23より企業と人間Ⅰを企業と人間に変更(23)
兼任	講師	岸本 征子 (69)	平成23年4月	福祉環境論						
兼任	講師	松上 京子 (48)	平成23年4月	福祉環境論						
兼任	講師	太田 正和 (76)	平成23年4月	健康の科学 生涯スポーツⅡ					健康の科学	H23より担当教員を変更(23)
									生涯スポーツⅡ	
兼任	講師	岩橋 邦彦 (59)	平成23年4月	健康の科学						
兼任	講師	藤川 貴司 (36)	平成23年4月	生涯スポーツⅡ						
兼任	講師	犬飼 義秀 (58)	平成23年4月	生涯スポーツⅡ						
兼任	講師	杉本 博 (62)	平成23年4月	生涯スポーツⅡ						
兼任	講師	吉村 直樹 (64)	平成23年4月	生涯スポーツⅡ					健康の科学	H23より担当科目を追加(23)
									生涯スポーツⅡ	



認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	高野 洋志 (61)	平成23年4月	生涯スポーツⅡ 生涯スポーツⅢ	兼任	講師	山口 立雄 (62)	平成23年4月	生涯スポーツⅡ	H23より担当教員を変更(23)
									生涯スポーツⅢ	
兼任	講師	森 一治 (56)	平成23年4月	生涯スポーツⅢ						
兼任	講師	山本 忠嗣 (71)	平成24年4月	インターンシップ						
兼任	講師	谷口 陽子 (33)	平成23年4月	ボランティア論	兼任	講師	谷口 陽子 <del>(33)</del>	平成23年4月	ボランティア論	兼任講師の変更に伴い担当を削除(23)
兼任	講師	平野 裕子 (33)	平成23年4月	ボランティア論	兼任	講師	平野 裕子 <del>(33)</del>	平成23年4月	ボランティア論	兼任講師の変更に伴い担当を削除(23)
兼任	講師	三木 淳男 (51)	平成23年4月	科学・工作ボランティア入門						
兼任	講師	福井 広和 (49)	平成23年4月	科学・工作ボランティア入門	兼任	講師	吉村 巧 (63)	平成23年4月	科学・工作ボランティア入門	H23より担当教員を変更(23)
									科学ボランティア実践指導Ⅰ 科学ボランティア実践指導Ⅱ	H23より担当科目を追加(23)
					兼任	講師	武田 芳紀 (60)	平成23年4月	科学ボランティア実践指導Ⅰ 科学ボランティア実践指導Ⅱ 科学・工作ボランティア入門	教育内容の充実を図るため兼任講師を追加(23)
					兼任	講師	森田 明義 (60)	平成23年4月	科学ボランティア実践指導Ⅰ 科学ボランティア実践指導Ⅱ 科学・工作ボランティア入門	教育内容の充実を図るため兼任講師を追加(23)
					兼任	講師	高見 寿 (61)	平成23年4月	科学ボランティア実践指導Ⅰ 科学ボランティア実践指導Ⅱ 科学・工作ボランティア入門	教育内容の充実を図るため兼任講師を追加(23)
兼任	講師	桑田 朋美 (42)	平成23年4月	キャリア形成講座						

(注)・届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・年齢は、「届出時の計画」には開設時現在の満年齢(科目就任時の満年齢ではありません)を、「変更状況」には平成23年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

## (2) 専任教員数

認可時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
8	4	0	0	12	0	8	4	0	0	12	0	
(8)	(4)	(0)	(0)	(12)	(0)	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	

(注)・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成23年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[ ]内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1名減の場合:△1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	-	該当者なし	-
2			
3			

(注) ・届出時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

(注) ・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。



## 6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (23年5月)	該当なし		

- (注) ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <工学部 建築学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	該当なし

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、届出時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 届出書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

##### ① 実施体制

###### a 委員会の設置状況

###### 【FD委員会】

平成12年度に大学の教育・研究に関する事項を審議する教育研究委員会の下部委員会として設置。平成16年度に独立した委員会となり現在に至る。本委員会は、副学長（教育研究担当）、副学長（管理運営担当）、学部長、学務部長、教育開発支援機構長、FD推進室長、共通教育連携室長、教職・学芸員センター所長、数学・情報教育センター所長、理科教育センター所長、学習支援センター所長、大学事務局長、大学事務局次長及び各学部代表1名から構成されており、平成22年度委員長はFD推進室長が担当した。

平成22年度には、共通教育の充実及び教育改善を継続的に行っていくため教育開発支援機構を設置し、その中に教育活動評価及び授業改善の企画・実施を担当するFD推進室を置くとともに、各学科にFD推進員を置き、FD実践の組織的な体制を強化した。

###### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

委員会は年3～4回程度開催している（22年度はメール審議を含め3回実施）。参加状況は委員全員が出席を原則とし、欠席の場合は代理出席を求める。また、FD推進員と有志教職員による「FD・SDを考える会」や拡大FD委員会を開催し、FD委員会委員に限定せず意見を聞く場を設けている。

###### c 委員会の審議事項等

- ・ FD義務化への対応
- ・ 外部評価の助言（FD関係）に対する回答
- ・ 授業改善
- ・ 授業アンケート
- ・ 教育システムの点検
- ・ 個別科目、科目群の検討
- ・ FD講演会の開催

##### ② 実施状況

###### a 実施内容

- ・ 学生による授業アンケート
- ・ 教員相互の授業参観
- ・ FD講演会

## b 実施方法

### 「学生による授業アンケート」

講義・演習の全科目について、年2回前期・後期の定期試験前にマークシート方式で実施している。学生に対する質問3項目、授業と教員に対する質問11項目および自由記述からなる。アンケートの集計結果および自由記述欄に対する教員の回答は、学部事務室、図書館および教務課で学生が閲覧可能としている。アンケートの対象や質問項目に追加や変更が必要な場合は、FD委員会において検討されている。

平成20年度後期からは、授業アンケートの点検・改善機能を強化するために、「各項目評価に対する所見」「受講者へのコメント」「次回に向けての改善・変更予定」「自由記述に対する回答」に関する教員の所見をとりまとめて閲覧できるようにした。また22年度はアンケートの項目、内容、実施方法についてワーキンググループを組織し検討を行った。

### 「教員相互の授業参観」

平成21年度から全学的な授業参観制度が施行され、非常勤講師担当科目も含めてすべての授業が参観可能となった。参観希望者は授業担当者に1週間前までに参観希望を申し出て参観実施後コメントをフィードバックする。

### 「FD講演会」

FD推進室等が中心となって企画立案したテーマに関する講演会を、学内教職員対象に年に2～3回実施している。必要に応じて学外講師を招き、幅広いテーマについての研修を可能としている。

## c 開催状況（教員の参加状況含む）

### 「教員相互の授業参観」

従来は一部の学科または希望する教員のみで授業参観を実施してきたが、平成21年度から全学的な授業参観制度を導入し、17学科4センターの内8学科3センターで実施され、件数は67件であった。22年度は、7学科1センターで実施され、件数は57件であった。また2件が、「FD・SDを考える会」の一環として全学にアナウンスして開催された。

### 「FD講演会」

過去5年間の講演会の主題は以下の通りである。平成18年度は「フレッシュマンの満足度向上と動機付けを目指して」、平成19年度は「退学者削減への取り組み」、平成20年度は「FDの本質と具体化」、「学習と生活に関するアンケートの結果」、「授業アンケートの解析」、「インストラクションデザイン入門」、「e-ラーニングコンテンツ作成」、平成21年度は「愛媛大学のFDの取組」、「愛媛大学の初年次・共通教育」、「愛媛大学の人材育成ビジョンとSPODにおけるSD」、「授業アンケートの解析」。平成22年度は、筑波大学での「筑波スタンダードに基づく教養教育の再構築の成果と課題」、京都大学での「予想と実験でたのしい講義」実践、「本学各学部と代表学科によるFD活動報告」。出席者は平均約90名である。

### 「FD・SDを考える会」

本会は学科FD推進員と任意の教職員を中心とする勉強会であり22年度に発足した。22年度は2件の授業公開と1件の勉強会（FDカフェ）を実施した。

### 「戦略GPと連携したFD活動」

「科学Tryアングル岡山」の主催により、岡山理科大学・岡山大学・倉敷芸術科学大学及び津山工業高等専門学校が3大学1高専のFD活動について発表するため、平成22年7月と平成23年2月にFD講演会・ワークショップが開催され、金沢工業大学ならびに帝塚山大学より講師が招聘された。

また、「岡山オルガノンの構築」の主催により、平成23年1月に岡山県内15大学が参加して第1回岡山オルガノンFD・SDシンポジウムが開催され、また平成22年9月に開催されたi\*See2010と桃太郎フォーラムⅧにも本学からの参加があった。

## d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

FD活動の取り組み状況はFD委員会および学内の他の委員会で報告され、講演会の資料や実施結果は報告書としてまとめて閲覧されている。授業アンケートの結果は所属長の点検後担当教員に返却され、教員所見の作成により授業改善に向けてのフィードバックが行われている。平成20年度より毎年度授業アンケートのデータを詳細に解析し、授業の改善傾向の把握と今後の取り組みについて議論している。

さらに22年度には「FD推進員制度」「FD・SDを考える会」を組織し、教職員へのFDの更なる啓発に努めている。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

### (3) 自己点検・評価等に関する事項

#### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学科は総合情報学部設置されていたが、総合情報学部での建築学科の運営は、社会的に認知され難い面があり、また建築産業分野においても十分な周知が進まなかった事で、学部全体としての入学生の確保などにも大きく影響を及ぼすことが明らかとなった。我が国における建築学科のほとんどが工学部に設置され、学術的にも工学の分野として広く社会に認識されている現状から鑑み、総合情報学部での「建築学科」を募集停止し、新たに工学部に「建築学科」を設置した次第である。本学科は21世紀における建築のあるべき姿を追求するために、建築の創造を新たな文化の創造として捉え、人間のあらゆる活動が行われる場としての建築や都市空間の創造に関する知識・技術を、修得し、地球環境の破壊や資源の枯渇等の新しい問題の解決をも視野に入れ、使う人、暮らす人の視点で、社会が要求する地域に密着した多様なニーズに応える「現場、実務に役立つ知識や技術」を修得した建築家・建築技術者の育成を目的に教育・研究を進めている。

この目的を達するために、本学科は学生教育のために3年生からは建築工学コース、住デザインコースの2コース制とし、教育に重点の違いはあるが、社会および地域のニーズに合わせた幅広い教育を行い、本格的且つ正統的な建築学科とする。計画系、構造系、環境設備系の総合的なカリキュラムを整え、設計演習に於いては個人のもつ感性を大切に個人指導を重視し、プレゼミの導入などで少人数教育を推進している。また、現場や実務に役立つ知識や技術の修得のため、手で触れ、感じる教育を重視し、可能な限り建設現場や修理現場、歴史的建造物や町並みの見学の機会を設け、地域に密着した建築や都市空間を思考させる教育を行っている。

#### ○学生の教育に関して

2010年度になって当初計画した初めての卒業生を社会に送りだし、岡山県等の官庁、大手ゼネコン、設計事務所、地元建設会社等建設分野を中心に広い産業分野に学生を送りだし、就職率96%という高い就職率を達成した。これは全学平均を抜きで高い就職率となった。学生については、本学科に於ける学習によって建築学という新たな具体的な目的を自覚し、7名の学生が大学院に進学し、設計演習においては質の高い個性的な作品を創り出し、日本建築学会主宰の設計競技においてタジマ奨励賞（全国10作品）を受賞するなど外部の設計競技において顕著な成果をあげ、本学の学長表彰を受けた。卒業設計では、広島8大学卒業設計展において伊東豊雄賞を受賞するなど着実な成果が見られる。教育体制が整うと共に、設計教育についても十分な教授陣の指導によって進められるようになった証左であり、全体としても本学科の当初の目的が順調に達成されたのを実感している。これらは、適切な教育実施につながっている結果と考えられる。建築士法の改正に伴い「建築士試験指定科目の確認」の審査を受けたが、当初計画された科目を追加変更することなく、また、提出したシラバスもほとんど変更することなく、受験資格に必要な必修科目の単位数の条件を余裕を以て満足するという審査結果を得た。このことから、本学科のカリキュラムが充実しているものと認められたと考えている。

#### ○入学志願者数および入学者数に関して

2007年度の志願者数は80人の定員に対して195名で、合格者数は167名、入学者数は59名であった。2008年度から志願者数がやや減少し149名となったが、入学者数は55名で大きな減少は無かった。2009度は志願者数は大きく減少したわけではなかったが、入学者数は41名と減少する結果となった。教員が高等学校に当学科の特徴ならびに学生や教員の活動状況を説明すること、学外での学生の活動の機会を増やして学科の存在をアピールすることなどの努力をし、状況の改善に務めて来た結果、2010年度の志願者数は127名であったが、入学生数は56名とかなり改善された。本年度は、70人の定員に対して志願者数は175名で、入学者数は63名で、志願者数、入学者数もさらに改善されたが、依然として入学定員数に達していないことが課題である。中国地方、特に岡山での学科の知名度と存在感を更に増すため、大学当局と学科とが一丸となって連携し、今までにない住デザインコースなどのコンテンツを作成して様々な広報活動を展開する計画を作りつつある。

#### ○カリキュラムおよび専任教員の変更

今年度から、カリキュラムについては、工学部に設置されて、3年生からは建築工学コース、住デザインコースの2コース制としたので、コースの教育に重点の違いに対応して、9科目の新設、7科目の廃止等整備を行った。専任教員については5名の変更があったが、新たな人材を3名確保し工学部での新設に対処するとともに、2名の教員を再雇用して総合情報学部の学年進行中である2～4年生対応した教育を行っている。

#### ② 自己点検・評価報告書

##### a 公表（予定）時期

- ・平成23年6月 公表

##### b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開

#### ③ 認証評価を受ける計画

- ・平成25年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 届出時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (  有 ・  無 )
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) ( 平成23年7月末日 )
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク (  承諾する ・  承諾しない )
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス  
(<http://www.ous.ac.jp/summary/shinsei.html> )

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。  
なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : [d-secchi@mext.go.jp](mailto:d-secchi@mext.go.jp)

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。